

## 跋

本書は底本とした『日本古典全書 狭衣物語』の発刊間もない頃に企画し、編纂に着手したものである。一体、総索引の必要性は作品の分量が多いものほど痛感されるのであるが、分量が多くなるにつれて編纂の困難さも飛躍的に増大するやうである。本書も予想以上に時日を要し、漸くここに刊行出来ることになった。本書が源氏、狭衣と併称された狭衣物語の研究の進展に役立ち、平安時代の文学や国語学の研究に幾分なりとも寄与出来れば幸である。

我々四名は底本の精緻な註の恩恵を蒙りながら、『枕草子総索引』編纂の経験を生かし、見出語の立て方、助詞の接続による分類など、出来得る限り使ひ易いやうにと努力を重ねたが、種々不備な点や、思はぬ誤もあらうかと思ふ。利用者各位の御指摘、御指導を切に願ふ次第である。

本書編纂の間、松村博司先生、石川徹先生には、終始暖かい励ましと、種々の御指導、御配慮とを賜はり、特に松村博司先生には序文を御執筆下さったことを厚く御礼申し上げる。又、出版を御引き受け下さった笠間書院の池田猛雄氏に厚く御礼申し上げます。

榊 原 邦 彦  
藤 掛 和 美  
武 山 隆 昭  
塚 原 清